



CSR Report 2018



contents

- 4 **Top Message**
- 6 **Environment**
環境配慮(省エネルギー・ゼロエミッション・他)
- 8 **Social**
従業員とともに
- 10 **Community**
地域・社会とともに
- 12 **Customer**
お客様とともに
- 14 **Partner**
パートナー会社とともに
- 15 **Security**
情報セキュリティ

企業概要

日経印刷株式会社

代表者 代表取締役会長 兼 社長 林 吉男

本社所在地 東京都千代田区飯田橋2-15-5

電話 03-6758-1001

創業 1964年10月

資本金 8,000万円

売上高 102億8,270万円(2017年12月期)

従業員数 446名(2018年4月現在)
(パートアルバイト含む)

業務内容 企画・デザイン、編集、ライティング/DTP、
出力等プリプレス工程全般/オフセット
印刷(枚葉)/プリント・オン・デマンド/
製本一式/表面加工/紙器・加工/仕分・
梱包・発送/CD、DVD等メディア制作/
Web制作/電子出版/白書製造請負、出版

企業情報

日経印刷の情報

日経印刷ウェブサイト<https://www.nik-prt.co.jp/>の
各コンテンツをご覧ください。

個人情報保護方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/privacy.html>

品質方針、環境方針、ISMS基本方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/social.html>

認証取得

ISO 14001:EMS

ISO 27001:ISMS(本社・グラフィックガーデン)

プライバシーマーク認定(JIS Q 15001)

FSC® COC認証

グリーンプリンティング工場認定(グラフィックガーデン)

Japan Color 標準印刷認証(グラフィックガーデン)

Japan Color ブルーフ運用認証(グラフィックガーデン)

Japan Color マッチング認証(グラフィックガーデン)

編集方針

日経印刷はこのCSRレポートを通して「事業活動」、「社会」、「環境」の観点でステークホルダーの皆様の期待に応えるために取り組んでいる活動を開示することにより、当社をご理解いただき、またステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、「人の想いをカタチに」する情報加工産業の価値向上に役立てていくことを目的としています。

また、自社のCSRレポート作成を通してCSRを学び、CSRレポート、CSR報告書作成のノウハウを蓄積することで、お客様により良いサービスをご提供することを目指しています。

報告対象組織

日経印刷株式会社

報告対象期間

原則として、2017年度(2017年1月~2017年12月)の活動を対象期間としていますが、一部2018年のデータも含まれています。

報告対象分野

本レポートは日経印刷の事業活動、社会・環境に関する取り組みを対象としています。

ご意見・お問い合わせ

日経印刷のCSRへの取り組みについて、ご意見・ご感想をお寄せください。CSR活動やCSRレポートの改善にいかしてまいります。

発行月 2018年12月


所轄部署 日経印刷株式会社 管理本部 総務部

連絡先 TEL 03-6758-1001

FAX 03-3263-5814

Top Message





「素晴らしい印刷物を作り、 お届けする」 それが印刷会社の社会貢献

日経印刷の社会貢献

日経印刷にとっては「素晴らしい印刷物を作り、お届けすることこそが社会貢献です。社員一人ひとりがお客様に対して何ができるのか、どうすればお客様の力になれるのかを自ら考え、行動することで、常に創造的で質の高い提案に挑戦してまいりました。その姿勢はこれからも変わることなく、お客様の価値ある情報を最適なカタチで伝えることのできる印刷のプロフェッショナル企業として、高品質なものづくりに邁進していきます。そして今後もお客様に信頼していただけるパートナーであり続けるためには、既存概念を破る発想とより付加価値の高い商品やサービスの創造が必要だと考えています。そこで株式会社日本創発グループの一員となることで、特徴あるクリエイティブサービスの提供を目指すことにいたしました。日経印刷は社員が一丸となり、新しい事業領域の創出とさらなる事業の活性化を成長エンジンとして、これからもお客様の期待を超える提案に向けた挑戦を続けてまいります。そのうえで組織を大きくして雇用を増やす、利益をあげて国の財政(税金)に協力する、身体に障害を持つ人々を雇用するなど、私たちにできる社会貢献をさらに拡げていきたいと考えています。

日経印刷の企業文化

企業が社会に貢献するためには、そこで働く社員一人ひとりが社会に貢献する意識を持つ必要があります。その意識は社員が社会とのつながりを感じ、気持ちよく働ける環境があってはじめて生まれるものです。日経印刷には立場を超えてだれもが自由に意見を言い合える風通しの良さや一人ひとりの「やってみよう」という意思を尊重する企業文化があります。仕事に対して真摯に取り組むことで仲間との信頼関係が生まれ、それを保つことが毎日を充実させる原動力になります。社員の皆さんには働くことの本質的な楽しさや喜びを味わってほしいと思っています。できるだけ隠し事をなくしてオープンでありたい、人を信じ助け合って楽しく仕事をしたい。そうした結果として、私たちの存在が世に認められ、しいては社会への貢献につながると考えています。

日経印刷株式会社
代表取締役会長 兼 社長

林 吉 男

Environment

環境配慮(省エネルギー・ゼロエミッション・他)

企業が経済活動を行う上で、電気やガスといったエネルギーを使用し、製品・サービスを世に送り出すとともに、廃棄物を排出することは必然とされています。当社では企業としての社会的責任を果たすため、環境マネジメントシステムを構築し、省エネ・廃棄物の削減と再資源化・環境法規制の順守等に取り組んでいます。

効率的なエネルギー使用

エネルギー原単位集計

会社全体での生産量が毎年増大し、絶対的なエネルギー使用量が増えているなか、当社ではエネルギー原単位*1の改善目標を年2%として取り組んでいます。その実現のため、省エネ対策をまとめた「節電ガイド」を社内で共有し、日頃より意識的に取り組んでいます。また、最大電力

使用量が発生する夏季の前には、毎年あらためて省エネ対策を社内に周知することで運用を徹底しています。

2017年9月に江東区にあった工場(ハイデルベルグフロント)を浮間工場に統合し、生産設備を集約することで、エネルギー使用効率を統合前と比較して約20%改善しました。

ゼロエミッションの実現に向けた地道な分別

企業活動で生じる廃棄物の排出をゼロへ近づけるため、廃棄物を可能な限り分別し、リサイクル物として処理することで、ゼロエミッションの実現を目指しています。3R(リサイクル・リユース・リデュース)を徹底して行い、2017年の排出物に対するリサイクル率は全社で99.5%になりました。

紙のリサイクル分別の実例(一部)

No.	種別	内容
1	オフィス古紙	コピー用紙など、白系の紙類
2	雑紙(ざつがみ)	新聞紙、雑誌、書籍など
3	難処理古紙	ビニール加工された紙
4	ワンブ	印刷用紙の包装紙
5	段ボール	資材納入時などに出る段ボール
6	紙管(しかん)	ラップやテープの芯
7	紙粉	製本工程で排出される紙の削りカス

エネルギー原単位(全工場)

生産額 3,699百万

原油換算 188kℓ

0.509 kℓ/100万円

前年度原単位改善実績

-2.0% → 2.3%

省エネ法努力目標
年平均 1%

排出係数

電気: 東京電力2011年度排出係数

(0.000375t-CO₂/kwh)

ガス: 環境省 温室効果ガス算定・報告マニュアルより

千Nm³×単位発熱量(45) × 排出係数(0.0136) × 44/12

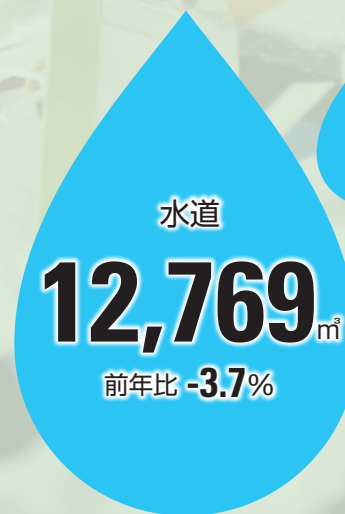
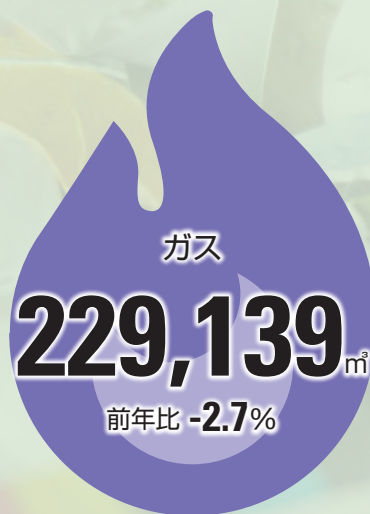
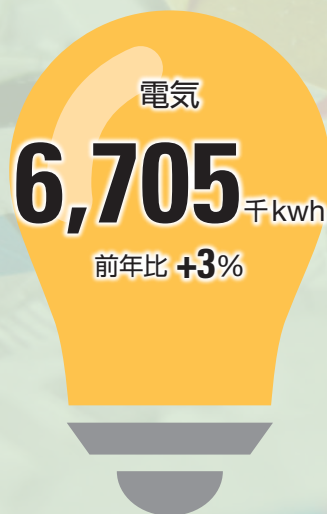
水道: 東京都水道局排出係数 0.2kg/m³

副産物計: リサイクル計 + 廃棄物計

リサイクル率: リサイクル計 ÷ 副産物計

環境データ

INPUT



本社	G2	浮間	DS
259	4,830	1,124	62

(千kwh)

G2
229,139

(m³)

G2	浮間	DS
12,120	583	66

(m³)



環境関連法規制の順守

企業が順守しなければならない環境保全に関する法規制は数多くありますが、これらを確実に守るため、当社では仕組みを構築し、運用しています。「環境法規制等登録簿」で関係する法令をピックアップし、「資格保有管理責任者一覧」で選任された管理者／担当者を明記。順守事項を管理者の役割ごとにチェックリスト化し、事業所単位で毎月実施している「事業所会議」にて

チェック結果を確認し、NG項目について修正／是正するというサイクルを回しています。



化学物質のリスクアセスメントへの対応

平成28年(2016年)6月1日に改正労働安全衛生法が施行されました。改正の発端は、印刷工場において洗浄作業等に従事した労働者の胆管がんの発症が相次いで明らかになった事件でした。これを切っ掛けに、化学物質による危険性または有害性等の調査(リスクアセスメント)の実施が、事業者の義務となりました。

当社では2004年から製品に含まれる化学物質を管理する「製品含有化学物質管理」に取り組んでおり、この仕組みに同法で求められている

リスクアセスメントを上乗せすることで対応しています。

リスクアセスメントは、工場で使用する資機材を購入する前に実施し、対象となる資機材のSDS(安全データシート)を基に簡易な手法と詳細な手法を組み合わせることで、負荷の軽減と確実性の両立を図っています。

このリスクアセスメントにより、製品の安全と従業員の安全を確保しています。

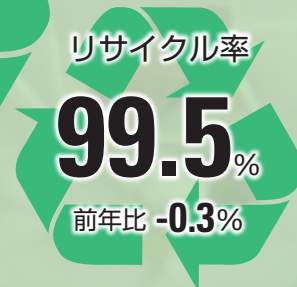
*1 エネルギー原単位

エネルギー原単位とは、製品の単位生産量に対する必要エネルギー量で、生産効率を客観的に表す指標です。

省エネ法では、年平均1%の改善が、努力義務化されています。これまで電力100kWで製造していた製品を99kWで製造できれば1%の改善となります。日経印刷の原単位の考え方は、生産額を100万円上げるのに使用した電力とガスを原油換算してkℓで表しています。

原単位0.623 = 100万円分生産するのに原油換算で0.623kℓ エネルギーを使用したことを表す

OUTPUT



電気	ガス	水道
2,492	521	3

(t)

一般廃棄物	廃油
13	2

(t)

紙類	プラ類	アルミ版
2,789	9	179
サーマル	定着液	(t)
1	70	

副産物計
2,992

(t)

従業員とともに

2017年も引き続き組織力向上部会を開催し、次世代リーダー育成について検討を重ねました。また、人材育成の一環として定額制セミナーの受講を開始、コミュニケーションスキルやビジネス基礎知識、基礎的な考え方などを学ぶ機会を設けています。

社内研修

2013年に教育体系構築プロジェクトを推進し、会社全体の教育体系図を作成しました。2017年度もその体系図に基づいて、さまざまな研修を計画し、その一部を実施しました。

(1) 新入社員研修・フォローアップ研修

2017年度は4月1日に新卒13名が入社しました。4月3日に入社式を行い、引き続き新入社員研修を実施しました。日経印刷の新入社員研修は各部署のマネージャが講師を担当します。2日間の社内研修の後は、学校法人日本プリンティングアカデミーで約3週間、印刷の基礎について学習します。また、入社から半年経った10月にはフォローアップ研修を実施しています。そこでは、自分のできていること、できていないことについて上司・先輩からアドバイスをもらうことで、2年目に向けての意識付けを行っています。

(2) 中堅社員研修

5月18日から20日の3日間、大卒4年目、高卒6年目の社員18名を集めて、中堅社員研修を実施しました。問題解決力、コミュニケーション力、問題解決実践力の向上を目的とした、2泊3日の研修です。さまざまな部署の社員が集まることから、部署間連携の強化も狙いのひとつとなっています。

(3) 管理職研修

2017年度は数字力、競争戦略、部下のやる気を引き出す上司力向上といったテーマで管理職研修を実施しました。

(4) 新任管理職研修

1月に新たに就任した課長を対象に、新任管理職研修を実施しました。課長としての役割や責任、権限について、さらには稟議や勤怠管理といった知識の習得を目的としています。

(5) DTPエキスパート講習

当社では営業本部、制作本部に所属する2年目の社員に対して、DTPエキスパート資格取得に向けた講習を行っています。6~8月の土曜日に、チャレンジ講座、直前対策講座を開催、9月には実技対策を行って合格に向けたサポートをしています。結果として、2016年8月に行われた第44期DTPエキスパート認証試験では、全体の合格率が39.2%だったのに対し、当社受験者の合格率は90.9%となりました。

組織力向上部会の開催

2012年の人事制度見直し以降も人事にかかわる課題は尽きることがありません。そこで経営会議メンバーと管理本部のマネージャが集まり、組織力向上部会を月2回開催しています。さまざまなテーマについて議論をしてきましたが、2017年度は日経印刷の将来を担うリーダー人材育成をどのように進めるか検討を行いました。



部署間連携の第一歩「社内報」

社内コミュニケーションの活性化、部署間連携の促進を目的として、社内報を年4回(2月、5月、8月、11月)発行しています。社内の最新情報を共有したり、社員を紹介したりすることで、社内のコミュニケーションの活性化に役立っています。





Biz CAMPUSの導入

社員教育の充実を目的に、トーマツ イノベーション株式会社の行っている公開型定額制ビジネス研修Biz CAMPUSを導入しました。若手、中堅、管理職といった階層ごとに、ビジネスパーソンに必要なスキル、マインド、知識を集合研修で学ぶことができます。また、他社から来ている参加者とのディスカッションを通して新たな気づき、発見もあり、有効に活用しています。

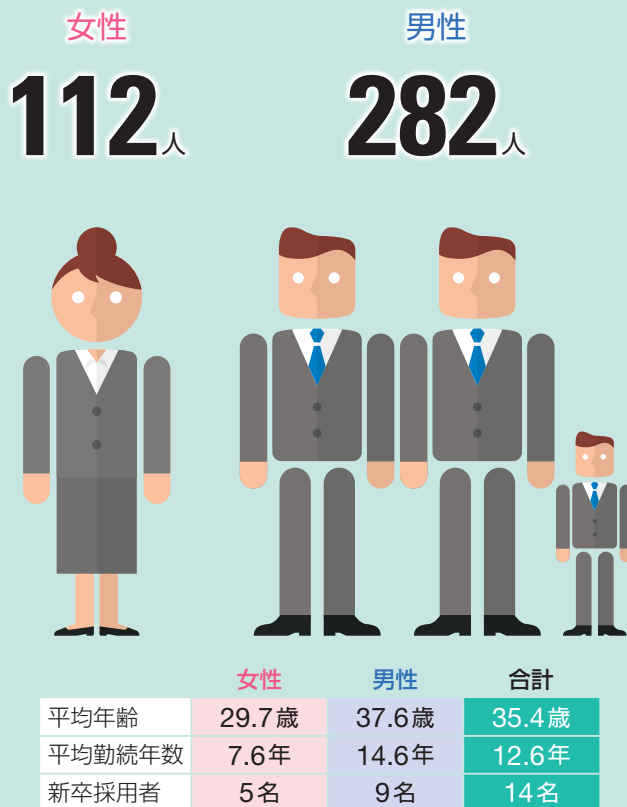


ストレスチェックの実施

ストレスチェックとは社員が自身のストレスの程度を把握するとともに、会社として適切な対応、働きやすい職場作りをすすめることでメンタルヘルス不調を未然に防ぐ取り組みです。この制度を具体的に進めるには産業医との協力が欠かせないため、当社産業医のエリクシア様が開発したストレスチェックシステムを活用し、チェックを実施しています。また、その結果に対して、本人からの希望があれば月例定期訪問時に産業医面談を実施しています。ストレスチェック以外にも過重労働問診票や健康診断事後措置票による面談や、本人からの面談希望、メンタルに関する相談まで対応しています。そのほか必要に応じて管理職を対象とした産業医によるメンタルヘルスマネジメント研修なども行っています。



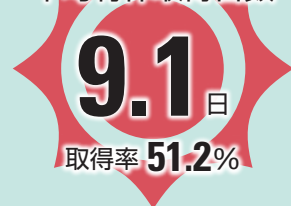
2017 人事データ



平均所定外労働時間



平均有休取得日数



子の看護休暇 利用者数

23名



出産・介護休暇 利用者数

4名



育児短時間勤務制度 利用者数

13名



Community

地域・社会とともに

グラフィックガーデンでは、インターンシップの受入れや学生・生徒の皆さんを中心にものづくりの現場を見学していただいています。働くことを体験し、印刷関連製品のできるまでを実際に見ていただいています。

インターンシップの受け入れ

東京の地場産業である印刷業を営む企業として、日経印刷は年間を通じて多くの学校、団体の学生・生徒さんにインターンシップの場を提供しています。実際の日々の仕事に触れてもらうことで、環境への配慮や情報セキュリティの中で作られている印刷物をより身近に感じてもらうことを目的としています。

また、民間の障害者就労支援施設の通所者や、職業能力開発センターの方々の職業体験も受け入れています。これらの体験を通じて、学ぶこと、働くことの意義を感じ取っていただき、就労意欲の向上につながればと考えています。



撮影ロケ地として工場を提供

グラフィックガーデンをドラマやCMなどのロケ地として提供しています。これは日経印刷も賛同している板橋区の産業観光の一環で、映像を通して東京の魅力発信や地域の活性化を図ることを目的としています。日経印刷は、2013年にロケ地紹介サイト「東京ロケーションボックス」に登録し、いただいたオファーの中から誰にでも見られるドラマやCMを中心に選び対応してきました。従業員のモチベーションの向上や地域のイメージアップに繋がることを期待しています。2017年度はテレビドラマ3件、映画1件、ファッションブランド製品カタログ1件の撮影が行われました。



工場見学の受け入れ

お客様やお取引先様、採用試験に応募いただく学生、生徒の皆さん以外にも、たくさんの方がそれぞれの目的で工場見学に来られます。一番多いのは近隣の小学校の児童さんによる社会科見学です。3年生の授業で印刷や製本について学習しているとのことで、ここ数年の定番となりました。まずはDTPのデモや印刷の原理、製本の工程について説明を行い、その後に実際に工場を見学してもらっています。北区にある浮間工場では、オペレーターが印刷の仕組みについて実際の印刷機を使って説明するなど、工場それぞれの持ち味を生かして社会科見学に協力しています。また、特別支援学校の皆さんや民間の障害者就労施設に通所される方の見学も受け入れています。そのほか、専門学校生徒さんやビジネスインターンシップにおいては、進路の選択の一助として、デザイン・編集・DTP、印刷・製本といった本作りの各工程を見学いただいています。





各種イベントへの協賛

印刷会社として、あるいは板橋区に工場を持つ企業として、様々な活動、団体に協賛を行って支援をしています。

出版甲子園

学生から「本」の企画を募集し、出版業界を盛り上げようと活動している学生団体を支援しています。企画募集や決勝大会の告知用リーフレット・ポスターの印刷をサポートしています。出版甲子園については、以下のWebサイトをご覧ください。
<http://spk.picaso.jp/>

いたばし花火大会

グラフィックガーデン工場の地元である板橋区と荒川をはさんだ向かい側の戸田市の共催で毎年8月の第一土曜日に行われる「いたばし花火大会」に協賛しました。社員は毎年、家族や友人を招待してグラフィックガーデン工場の食堂や屋上から楽しく花火を見物しています。



日本タウン誌・フリーペーパー大賞2017

一般社団法人日本地域情報振興協会が毎年開催しているイベント「日本タウン誌・フリーペーパー大賞」に協賛しました。「日本タウン誌・フリーペーパー大賞」は、全国のタウン誌やフリーペーパーの応募を募り、誌面クオリティや読者の支持率などをもとに審査を行い、評価の高い媒体を表彰するものです。地域の情報発信のために頑張っている方々を少しでも応援したいと考えています。

日本タウン誌・フリーペーパー大賞については、以下のWebサイトをご覧ください。

<http://award.nicoanet.jp/>

東日本大震災復興支援

毎年6月に食事会というパーティーを開催しています。そのパーティーで行われる抽選会の景品として、東日本大震災の復興支援の意味も込めて「純米八重の桜しずくとばんげぼんげセット」(福島県)と「宮城の絶品おむすびキット～春の食材～」(宮城県)を購入しました。

使用済み切手の回収

会社に届いた郵便物の切手を回収してボランティア事業に参加しています。回収した使用済み切手は、麹町法人会を通して世界中のお母さんと赤ちゃんの命を守る活動を推進する公益財団法人ジョイセフに送付します。集められた切手は換金され、ジョイセフが開発途上国で推進する妊産婦と女性の命と健康を守るための活動資金として活用されています。



従業員レポート

出版甲子園への協賛について

人事総務部 人事総務課
竹内 彩花 さん



「出版甲子園」とは、学生が運営している出版コンペティションです。全国の学生から募集した出版企画を現役編集者の前で競わせ、見事「売れる」と認められた企画は書籍として世に送り出されます。日経印刷は、この活動に広報用のポスターやパンフレットなどの印刷物を提供するというかたちで協賛しています。今年も春・秋2回、出版甲子園実行員会の学生さんから頂いたデータをもとに、印刷物の作成を行いました。

「出版甲子園」は書籍が好きな学生が集まって運営していることもあり、必然的に出版業界に興味のある学生さんとやり取りをすることになります。今の学生はデジタルネイティブ。スマートフォンで写真を撮って加工したり、PCで画像を編集したりはお手の物です。しかし、出版に関心があるからといって、InDesignやPhotoshopといったDTPソフトの扱いに慣れている学生はほとんどいません。

原稿には塗り足しが必要なこと、トンボの意味、使用する紙によって色の出方が変わること……。校正のやり取りをする中で、印刷の基礎の基礎ともいえる点を案内していきます。校了が出る頃には、「チラシを一枚作るにも、ただ画像を用意すれば終わりというわけではないんだ」ということが理解してもらえるようで、やり取りが洗練されてくるのを見ているのは嬉しいです。

最終的には一年を通して全12種類、5万部近い印刷物を納めました。出版業界を明るく盛り上げていこうという熱意ある学生さんと接することは、とてもいい刺激になりました。

Customer

お客様とともに

企業が社会的責任を果たすためには、「持続的な成長」が最も重要と考えます。安定した経営基盤があつてこそ、従業員はもとよりお客様、社会や地域への貢献が可能となります。健全な事業を継続するために、「お客様の声」に耳を傾けることで時流を捉え、ニーズを考慮した事業に取り組んでいます。

CSRセミナー

CSR報告書の制作業務の中で得た経験やネットワークを活かし、お客様に情報発信をする場として、2012年よりCSRセミナーを開催しています。2017年はお付き合いさせていただいているコンサルティング会社様のご協力もあり、年5回128社、155名のお客様にお越しいただきました。

SDGsをはじめとして、企業を取り巻く状況は変化しています。弊社としてもセミナーでCSR報告の動向を勉強させていただいています。セミナーで得た知識を訪問先のお客様とも共有させていただき、自社のCSR活動はもちろん、お客様の企業価値を伝えるCSR報告書とともに作り続けて参ります。

2017年CSRセミナー一覧

CSRレポート2017トレンド解説(3/2)



30名 26社

気候変動のリスクと機会が財務に与える影響をイメージする(4/18)



17名 14社

CSR・環境報告書トレンドセミナー(7/11)



38名 30社

企業価値につながるCSR(9/12)



28名 22社

ESG投資の最新動向と企業の対応(10/9)

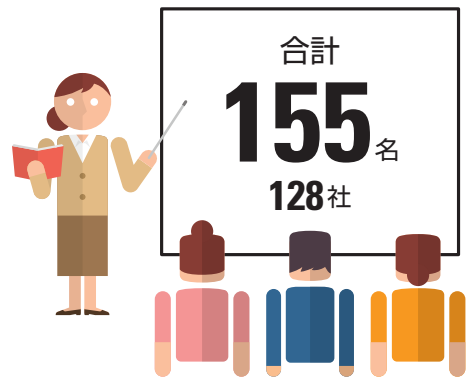


20名 19社

CSRレポートトレンド分析(12/7)



22名 17社



じゆう帳寄贈先 (2017年5月現在)

50部



水俣第一小学校

200部



水俣市内
2017年 新1年生

350部



水俣物産展

170部



市原市 若葉小学校
1年~3年生

100部



守山市川田町自治会
2017年度 新1年生



FSC® COC 認証とは

日経印刷は、環境に配慮した日々の事業活動によって、企業としての社会的責任を果たすべく、2007年に環境方針を制定しました。このCOC認証の取得もこの方針に沿ったものです。

これにより、環境に配慮した印刷製品のひとつとして、FSC認証製品をお客様へご提供することが可能となりました。

FSC(Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会)には、森林の管理を認証する「FM(Forest Management: 森林管理)認証」と、認証された森林から産出された木材の適切な加工・流通を認証する「COC(Chain of Custody: 加工流通過程の管理)認証」があり、認証材以外のもものが混入しないよう、各加工・流通工程で適切に管理された製品には、その証としてロゴマークがつけられます。



責任ある森林管理のマーク



グラフィックガーデン工場見学会

グラフィックガーデン見学会の開催は5年目となりました。昨年もさまざまなテーマでのセミナーと工場見学会をセットにした企画を開催し、幅広い層のお客様にご来場いただきました。

2016年度グラフィックガーデンセミナー一覧

見ながら学べる本づくり-90分の工場見学会(2/18)



49名 25社

明日から使える！マーケティングセミナー
「感性をプラスして顧客を増やすデータ活用術」(4/21)



32名 22社

見ながら学べる本づくり-90分の工場見学会(6/9)



60名 33社

ワンストップ体制工場見学会(7/14)



63名 32社

オンデマンド印刷で広げる表現の可能性 印刷実感型見学会(9/8)



48名 28社

明日から使える！マーケティングセミナー
「最新AR技術の活用によるソリューションについて」(10/13)

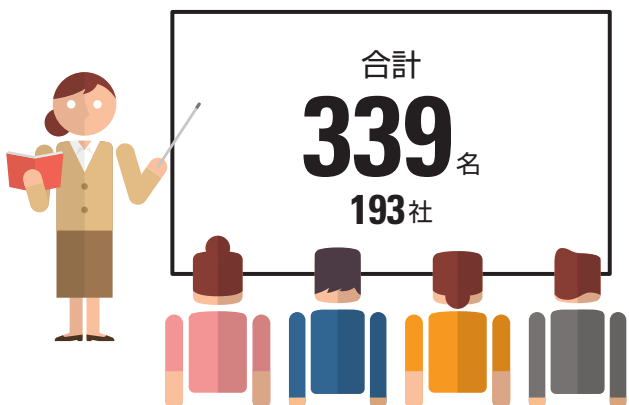


34名 20社

明日から使える！ブランディングセミナー
「企業・地域のブランドイメージを創る色彩」(11/10)



53名 33社



セミナー

明日から使える！マーケティングセミナー

「感性をプラスして顧客を増やすデータ活用術」4月開催

明日から使える！マーケティングセミナー

「最新AR技術の活用によるソリューションについて」10月開催

明日から使える！ブランディングセミナー

「企業・地域のブランドイメージを創る色彩」11月開催

工場見学会

工場見学会では、「90分でわかる」と題して、本が製造されていく様子を工程順に見学していただけるプログラムで開催しております。

また、2012年の印刷産業環境優良工場表彰において「経済産業大臣賞」を受賞した当社の環境への取り組みもご案内しております。用紙やインキなどの原材料が製品化される過程で、断裁紙や紙粉、廃液などの廃棄物が排出されます。その廃棄物がどのような方法で分別処理され、最終的にリサイクルされるか、また電力消費対策としての省エネ活動や社員教育の取り組みなどについて、各フロアを回りながら全過程を直接ご覧いただきました。

これからも、環境に配慮した設備維持や投資、生産活動、社員教育などを通じて、地域社会との融合や安全な製品の市場への提供、社会への貢献を実現していきます。



Voice

営業推進部 営業推進課
課長代理
上野 真吾 さん



営業部では、グラフィックガーデン工場見学会やビジネスでお役に立つ内容のセミナーを年間7回実施しております。今年も多くのお客様にご来場いただきました。

工場見学会は、担当の営業マンと一緒に各工程をご見学いただくシンプルなものから、印刷工程などでデモンストレーションを行うものなど、毎年変化をつけながら企画しております。見学時間も今までは午後のみでしたが、午前中の枠を設けるなど、ご来場いただくお客様のご都合に合わせてやすいよう工夫しております。

セミナーでは、普段当社の営業マンがお付き合いの無い部署やセクションの方にも日経印刷に知っていただくことを目的に、カラーデザインやマーケティングに関するビジネスセミナーを企画しております。

Partner

パートナー会社とともに

日経印刷は、パートナー会社の皆様とコミュニケーションを図り、良好な関係を構築していくことで、品質、納期、環境保全の維持向上とともに取り組んでいます。これからもパートナー会社とともに発展していけるよう、さまざまな取り組みを進めていきます。

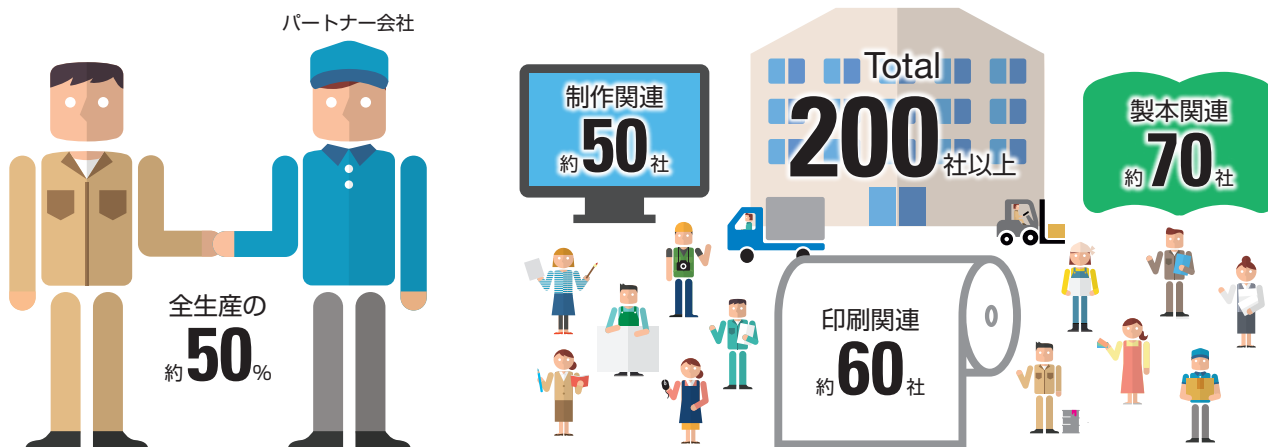
パートナー会社とのコミュニケーション

当社は、全生産の約50%をパートナー会社に依頼しており、パートナー会社との協業は無くしてはならないものといえます。現在、お取引させていただいているパートナー会社の数は、制作関連で約50社、印刷関連で約60社、製本関連で約70社にも上り、その他配送・発送関連のパートナー会社をあわせると200社以上になります。

「お互いに相談しあえる関係」であることを目指し、企業理

念である「公正な購買取引の慣行」のもと、全てのパートナー会社に対して、公平な機会を設け、公正・透明な発注・購買活動を心がけています。

また、新規でお取引を開始する場合は、提出いただいた資料の確認や工場などへの訪問、作業環境や作業方法等を確認してから、お取引を開始するようにしています。



パートナー会社の環境・情報管理

環境や情報の管理が必要となるような特殊な案件をパートナー会社に委託することもあります。

グリーン調達案件を依頼しているパートナー会社には毎年1回訪問し、インキ、溶剤、針金、製本糊等などに有害物質が含まれていないかを確認させていただき、有害物質を使用していないという証明書の提出も依頼しています。また、情報管理にかかわる案件に関しては、機密保持契約書を締結した上で、

刷本や製品の管理方法についての説明を行い、適正な管理の遵守を要請しています。

以上のように、当社では多くのパートナー会社とコミュニケーションを図り、より良い関係を構築していくことで、品質の向上、環境保全の維持向上に取り組んでいます。これからもパートナー会社とともに発展していけるよう、さまざまなことに取り組んでいきます。

パートナー会社への訪問活動

パートナー会社のそれぞれの特性・状況を把握するため、作業現場への訪問活動を行っています。訪問した作業現場では、設備・従業員・作業環境・作業の流れ・品質管理体制をはじめ、機械設備のメンテナンス実施状況や製品の出荷前の検査方法などを確認し、パートナー会社の管理に役立てています。パートナー会社を同じ視点・基準で確認していくことで、品質に対する意識や考え方など、さまざまな特性が見えてきます。それらの特性などを把握した上で、品質管理でのお願いや情報の水平展開を行い、パートナー会社のより良い作業環境の構築に努めています。



Security

情報セキュリティ

お客様よりお預かりする情報には、試験問題や発売前の製品情報、金融商品情報など、取り扱いに注意を要するものが多数あります。このような重要な情報を安心して預けていただけるよう、情報セキュリティに力を入れて取り組んでいます。

プライバシーマークとISO27001 (ISMS)に基づいたマネジメントシステム

日経印刷が取り扱う情報には、お客様よりお預かりする印刷物の内容とそれに付随する情報はもちろん、製品を全国に発送するためのお届け先リストやお客様の個人情報があります。また自社内の情報として、従業員の健康診断結果や給与情報などの個人情報も管理する必要があります。

このような情報を適切に管理するために、2006年にプライバシーマーク(通称:Pマーク)^{*1}を、2009年にはISO27001 (ISMS)^{*2}認証を取得しました。この2つの認証制度に基づいたマネジメントシステムを構築・運用することにより、情報の取り扱いにおいても信頼される会社を目指しています。

大切なデータや情報を守るために

日経印刷では、作成する印刷物だけでなく、その制作過程におけるデータのやり取り経路・手段や社内での取り扱いにおいてもお客様に安心していただけるセキュリティが必要だと考えます。

まずデータのやり取りでは、監査ログが取得できないデータ交換サイトを利用したデータのやり取りを禁止し、WebDAVサーバと日経印刷セキュアファイル転送(Nikkei Secure File Transfer)という2つのソリューションを使用しています。どちらも通信経路の暗号化やユーザ認証、監査ログが必須であり、大切なデータの安全な受け渡しが可能です。その他にも、Eメールやインターネットからウイルス感染を防ぐた

め、システム面での各種セキュリティ施策を実施しています。

また、社内ルールで「極秘」「機密」レベルに設定された業務においては、作業担当者を限定して作業を行っています。さらに案件ごとにアクセス制御された専用フォルダの使用や原稿保管キャビネットの施錠、印刷物保管場所への入室制限などをおこない、情報の流出を防いでいます。

これらの取り組みは「情報セキュリティ管理策規定」でルールとして規定され、全社員が情報セキュリティを意識しながらスムーズに運用できる仕組みを実現しています。

*1 プライバシーマーク (Pマーク)

全事業所にて認定
個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者等を認定して、その旨を示すプライバシーマークを付与し、事業活動に関してプライバシーマークの使用を認める制度です。個人情報の保護を目的としています。

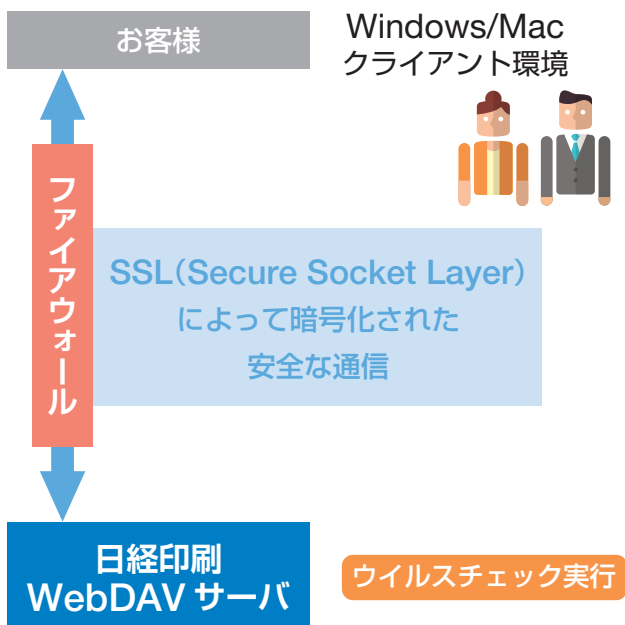


*2 ISO27001 (ISMS)

本社及びグラフィックガーデンにて認証取得
事業者が保有する情報にかかわるさまざまなリスクを適切に管理し、組織の価値向上をもたらす国際規格です。企業が取り扱う情報の適切な管理を規定するものです。

サーバ、ファイル転送によるデータ受け渡しのしくみ

● WebDAV サーバ



 **日経印刷株式会社**
www.nik-prt.co.jp

本社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-15-5
TEL. 03-6758-1001 FAX. 03-3263-5814

グラフィックガーデン

〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-7-16
TEL. 03-6758-1000 FAX. 03-5392-6328

浮間工場

〒115-0051 東京都北区浮間2-15-8
TEL. 03-6758-1005 FAX. 03-3966-0781

DTPスタジオ

〒383-0042 長野県中野市西条1315
TEL. 03-6758-1006

